研究主題　　一人一人の笑顔があふれ、きらり輝く授業をめざして
～道川分教室のこれまでの実践を生かしながら～

１　はじめに

道川分教室では、令和２年度からの２年間「児童生徒による学習評価の充実～自立活動の授業づくりを通して～」の研究主題の基、重度・重複障害のある児童生徒が学びを実感し、達成感を表す学習評価の在り方を求め、自立活動の授業づくりに取り組んだ。具体的には、研究対象の個別学習を選定し、授業構想や学習評価に係るツール及び映像を活用しながら、職員全員で授業づくりを行った。結果として、個に応じた効果的な支援等を多様な視点で検討・提案することにつながり、児童生徒の変容を導くことができた。表現の仕方は微細な児童生徒であるが、映像を活用した評価で見られた授業時の笑顔からは、学びを実感し、達成感を得ている様子を感じ取ることができた。

今年度は、これまでの研究成果を汎用化させる１年として研究を推進していく。全生徒が学びを実感し、笑顔あふれる授業づくり・授業改善を行い、生徒の確かな成長につなげたいと考え本主題を設定した。

なお、「ゆり支援学校道川分教室」は、今年度をもって閉室し、その教育は秋田きらり支援学校へ引き継がれる（移管する）ことになる。道川分教室は、前身である本荘養護学校時代から、病院への訪問教育における授業実践を積み重ねてきており、今に引き継がれている。研究推進にあたっては、この間の実践で得た知見等も生かしながら進め、重度・重複障害教育における専門性の継承にもつながるまとめとしたい。

２　生徒の実態

道川分教室は、独立行政法人国立病院機構あきた病院重症心身障害病棟に入院している児童生徒を対象に訪問教育を行っており、今年度は中学部１名、高等部３名の生徒が在籍している。

生徒は、脳性まひ等に起因する重度の肢体不自由と知的障害を有しており、日常生活全般において医療的ケアや生活支援を必要としている。周囲からの働き掛けに表情や微細な身体の動きで気持ちを表す生徒、簡単な言葉のやりとりができる生徒など表現の仕方は様々であるが、今までの学習の積み重ねから、表情が豊かになったり、安定した気持ちで過ごしたりするなどの変容が顕著に現れている。どの生徒も友達や周囲の人との関わりを楽しみにしており、一生懸命気持ちを表そうとする様子が伝わってくる。

３　内容と方法

「授業づくり」「授業づくりを支える研修」を研究の柱として進め、授業づくりに係る実践を事例としてまとめる。

(1) 授業づくり

○「授業づくり検討会」を実施し、チームで具体的な授業づくり・授業改善を行う。
- 実態把握と指導目標の設定（アセスメントチェックリスト、道川版自立活動の流れ図による中心課題の導き→個別の指導計画策定）
- 授業構想の検討（道川授業デザインシート・略案による検討）
- 授業改善の視点検討（映像記録、エピソード記録等による評価、変容の確認）
- 目標等の修正（個別の指導計画の改善）

○授業実践に当たっては、以下の観点を基に指導・支援を工夫する（**共通実践事項**）。
- 流れのある題材計画　・言葉掛け　・姿勢づくり　・教材・教具　・授業展開

(2) 授業づくりを支える研修

○総論　「重度・重複障害（病院訪問）教育における授業づくり」

○各論　・リハビリテーション参観（あきた病院　ＯＴ、ＰＴ、ＳＴ）
　　・教材・教具づくり研修　・ＩＣＴ研修

４　研究計画　　※P92　資料参照

５　研究の実際

今年度のテーマである「一人一人の笑顔があふれ、きらり輝く姿」は、生徒が学びを実感し主体的に活動する中で現れる。活動への期待感、できたという達成感、個々の表現方法による気持ちの表出など一人一人の目指す姿と一致する。「学びを実感し、自分の気持ちを精一杯あらわす姿」を引き出すために、分教室で今まで積み上げてきた成果を基に、次のような実践を行った。

(1) 授業づくり

①　チームによる授業づくり検討会の実施

生徒の実態把握から指導目標の設定、授業の評価･改善を生徒の成長につなげるために、これまでの研究成果である授業づくりに係るツールを活用して全職員で共通理解を図り、生徒の思いや変容に迫った。

＜授業づくり検討会＞（年５回実施）

〇目　的

① アセスメントの評価や自立活動の流れ図の見直しと確認を行い、個別の指導計画、授業の指導内容、題材構成等の検討を行う。

② 生徒の興味・関心や主体性を引き出し、達成感を味わうための教材・教具や教師の関わり方等について分析し、授業の評価、改善に生かす。

③ 学習評価記録の分析や考察を通して生徒の変容や成果と課題を明らかにし、次題材へ生かす支援等の方向性を検討する。

◇授業づくり検討会Ⅰ

・生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標等について確認し、道川版自立活動の流れ図を確認し、それを基に個別の指導計画、個別学習の指導内容等について検討する。

・道川授業デザインシートを活用し、指導主事計画訪問で提示する題材で目指す姿、題材の内容、手立て等について検討する。

◇授業づくり検討会Ⅱ

・指導主事計画訪問で提示する授業の様子をビデオで視聴し、改善点について話し合い指導案（略案）に反映させる。

・題材における生徒の目指す姿について共通理解し、評価記録用紙に反映させる。

◇授業づくり検討会Ⅲ

・指導主事計画訪問を受けた成果と課題の確認をする。また、中間評価（生徒の変容の確認、指導内容・方法の振り返り）を行い、個別の指導計画の見直し等を通して２学期以降の指導・支援に生かす。

◇授業づくり検討会Ⅳ

・授業づくり研修会を実施し、重度・重複障害教育における授業づくりのポイントを学ぶ。

・映像記録、エピソード記録等による評価と改善点について検討する。

・前期の生徒の変容について共通理解を図る。

◇授業づくり検討会Ⅴ

・生徒一人一人の今年度の変容や成果と課題について検討し、個別の指導計画の見直し等を通して３学期の指導に生かす。

② ５つの観点に基づく指導・支援の工夫（共通実践事項）

道川分教室では、平成２４年度から「児童生徒が主体的に活動するためのわかりやすい状況づくりである４つの観点」に基づいて授業づくりを行ってきた。単なる繰り返しではない「流れのある題材計画」が有効であるという昨年度の成果を踏まえ、５つの観点を基に「道川授業デザインシート」を活用して、授業デザインを行った。そこから期待される姿は、次の通りである。

〇流れのある題材計画「単なる繰り返しではない活動の組み立て」

・体験的な活動を題材のゴールに据え、そこに向けて関連する一連の活動を展開することで、意欲が喚起され多様な表現の表出

〇言葉掛け「言葉が相手に伝わる状況づくり」

・伝わりやすい言葉、音環境への配慮等をすることで集中して活動に向かう姿の育ち

〇姿勢づくり「取り組みやすい状況づくり」

・身体の安定、視線や手を動かす等、自発的に活動する姿の育ち

〇教材・教具「意欲を喚起する状況づくり」

・興味･関心のある事物の活用、提示物の精選により､活動しよう､分かろうとする意欲の向上

〇授業展開「見通しをもちやすい状況づくり」

・授業構成の一定化、繰り返し、シンボルの活用等による安心感、期待感の表出

⑵ 授業づくりを支える研修

以下の研修を実施して専門性の向上を図り、授業づくり・授業改善につなげた。

① 外部講師による研修

・期日：令和４年９月 26 日（月）

・内容：授業づくり研修会

講話「重度・重複障害教育の授業づくりで大切なこと～道川分教室・秋田きらり支援学校での実践をもとに～」

・講師：秋田県教育庁特別支援教育課　主任指導主事　菊地　真理　氏

〇授業づくりで大切なこと（授業づくりの基本）
・「理解（実態把握）：学習特性を踏まえる、情報を得る」「目標設定：個別の指導計画への反映、適切な評価」「配慮：教室環境、病院との連携協力、健康・安全、教員間の連携」
〇自身で大切にしてきたこと（分教室で考えたこと）
・「子どもの思いを分かるために」「正しい（子ども）理解ができているのか」「教師の主観の価値」へ迫るための記録や評価の仕方の検討
〇授業の実際で大切なこと
・「何を学ばせたいのか」伝わっているか、教師の言葉遣い、児童生徒の表情と動作をじっくり見る　等

② リハビリテーション参観

年度初めに、あきた病院のＯＴ、ＰＴ、ＳＴを参観し、生徒の身体に関する実態や安全なアプローチの仕方を学び、専門的な視点からのアドバイスを日々の指導に生かした。

＜写真＞あきた病院 PT の様子

これらの取組に基づいた授業実践（個別指導３事例、合同学習１事例）について、以下に述べる。

＜授業実践１＞

感じた気持ちを表現する力を高めるために
～校外学習に代わる活動を通して～

１　生徒の実態（中学部１年、女子）

・ミトコンドリア病。慢性呼吸器障害があり、人工呼吸器を使用。１日３時間程度離脱し、ストレッチャー式車椅子で学習をしている。合同学習への参加も可能となり、友達の声がする方向に顔を向ける。また、手の平にのせた物を握ろうとしたり、指先を動かしてタブレット端末（xylophone、ギター等）で音を鳴らし気持ちを表現したりする。

・保護者は、「色々な体験をしたり季節を感じたりしてほしい」「もっと笑顔や反応がみたい」等の願いをもっており、教育的ニーズを「身近な人との関わりを通して、自分の気持ちを表情や身体の動きで表す」等とした。

２　指導目標及び指導計画【自立活動】

(1)　指導目標

・興味・関心の幅を広げ、感じた気持ちを表情や身体の動きで表す。
・指先を動かし、タブレット端末で働き掛けに応じる。
・様々な働き掛けを受け入れ、自分から指や手を動かして活動する。

(2)　題材設定の理由

・個別の学習では、身体の緊張を緩めリラックスして学習に取り組むこと、諸感覚を活用し様々な音や素材に触れたり、感じたりしながら気持ちを表すことに取り組んでいる。また、教師からの働き掛けを受け止め、受け入れ、手や指先を動かして応じたり、口や表情で自分の気持ちを表現したりする力を高めることもねらいとしている。

・昨年度から「体験」をゴールとした題材に繰り返し取り組んできた。今年度も個別学習で取り組んできた学習内容を基に、お出かけ体験当日の活動を準備することで、ステップアップにつなげたい。また、病棟内で過ごす時間が多いこと、外出機会がないこと等から題材のまとめの学習を身近な地域への「お出かけ体験～道の駅岩城にいこう～」とし、様々な体験を味わうことができる学習としたい。

・バスに乗る（車窓の映像や音）、道の駅で買い物をする、海を感じる（砂、貝殻、波の音等）、港の湯で足湯体験をする等、分かりやすい刺激を学習の中に取り入れることで、感じた気持ちを表情等で表すことが期待できると考え本題材を設定した。

(3)　指導計画

題材名	主な目標	時数
お出かけ体験をしよう 「道の駅岩城にいこう」 （事前学習含む）	・日常の生活では経験し難い外出や体験を通して、社会経験の幅を広げる。 ・バスに乗る、お遣いをする、海を感じる、温泉に入る等の体験で感じた気持ちを表す。	6 時間 （事前） 2 時間 （体験）

３　指導の実際

(1)　働き掛けを受け入れ手や指先を動かして応じたり、口や表情で自分の気持ちを表現したりする力を高めるための工夫

〇流れのある題材計画

・題材構成とねらいに迫る授業展開の工夫（デザインシートの活用）
・見通しや安心感につながる（学びの実感）事前学習の積み重ね
・「安心感」に加え、非日常の心揺さぶられる体験の設定

〇言葉掛け
・即時評価のタイミング
・思いを読み取る「待つ」姿勢
・反応を受け止める教師の寄り添い方

〇姿勢づくり
・車椅子の角度（肘おき、クッション等の使用）

〇教材・教具
・実物（本物）にこだわった映像や音の準備（砂、貝殻、波の音、カモメの鳴き声等）
・持ちやすい教材・教具（チケット、お金）
・再現度の高い環境設定（バス、バス停、マルシェ、焼き物コーナー、港の湯）

〇授業展開
・期待感を高めるメリハリのある活動設定
（「静」と「動」の活動の組み合わせ）
・一つのコーナーに、一つの活動（刺激）の設定

(2) 学習の様子「９月 21 日（水）道の駅岩城にいこう」

学習内容	手立て及び留意点	生徒の様子
朝の会 バスで出発	・病院から道の駅までのコミュニティバスの経路を実際に車窓から録画をし、車のすれ違う音や走行音、車掌のガイド音を聞くことができるようにした。 ・道の駅に着くと「港の湯」とガイド音声が流れた。	 ・事前学習で取り組んできた降車ブザーを鳴らそうと指を動かしていた。
体験① 感じてみよう （道の駅見学）	・焼き物コーナーや農産物直売所（マルシェ）等のお店を見学し、道の駅の雰囲気を感じることができるようにする。	
体験② お遣いしよう （マルシェで買物）	・３種類の野菜を触り、職員に頼まれたさつまいもを選ぶ。指先の動きを確認しながら言葉を掛ける。	・さつまいもに触れ、数秒後手を開きゆっくりと握ろうとしていた。
体験③ 焼き物コーナーで香りを感じる （イカ焼き）	・香ばしい醤油の香りがする焼きイカを顔の横におく。表情や身体の動きを見逃さないようにする。	
体験④ 聞いてみよう （波、ウミネコ）	・プロジェクターで、道川海岸の波の音やウミネコの鳴き声を放映することで海岸の雰囲気を感じることができるようにする。	・口をもぐもぐと動かした後唾をごっくんと飲み込んだ。
体験⑤ さわってみよう （砂、貝殻等）	・砂の中に貝殻、流木などを潜めた。手や指先、表情の変化を見逃さないようにする。（全て素材は消毒済み）	・ゆっくりと指先を動かした。

体験⑥ 港の湯に行こう （足湯体験） 体験⑦ 気持ちを表そう （記念写真） おわりの会	・入浴券を５００円で購入することができるように、持ちやすい券や硬貨を準備する。 ・お出かけ体験の終わりが分かるように言葉を掛け、記念に写真を撮る。 ・振り返りをしながら、良い表情をした活動を伝え、楽しかった気持ちを共有できるようにする。	 ・口角を上げ笑顔で帰棟した。

(3) 指導の評価

・個別学習の内容を基にした活動の設定が、本人にとって無理がなく分かりやすい刺激になり、気持ちを表しやすかったのではないかと思われる。

〇感じてみよう（道の駅にバスで行こう、焼き魚や潮の香りを感じよう、温泉に入ろう）

〇さわってみよう（貝殻、流木を拾おう、足で砂に触れよう、砂＋潮水に触ろう）

〇聞いてみよう（バスの走行音、波の音、ウミネコの鳴き声、店員さんの声等）

〇体験しよう（バスの回数券を渡す、買い物やお遣いをする、温泉のチケットを買う）

・事前学習では、４つの活動を中心に、繰り返し取り組んだ。当日は、安心感をもって取り組み、学びの実感や気持ちの表出へとつながった。

・お出かけ前日の事前学習で「明日はお出かけだね」「明日迎えにくるからね」と言葉を掛けると笑顔で応じていた。「楽しみだね」と気持ちをフィードバックすると顔を教師の方に向け、口を動かし受け止めているような姿も見られた。

・各活動場所には、その場で何をするのかが分かるように掲示をした。本人に伝えながら活動したことで、気持ちを表出する姿が多く見られ、さらに気持ちのフィードバックのしやすさにつながった。

４　指導における成果と課題

(1)　成果

〇期待する姿、予想される姿を具体化した、気持ちの表出につながる活動設定

・チームによる丁寧な生徒理解と授業デザインシートの活用

・見通しや安心感につながる姿の確認

〇期待感、達成感につながる思い（感じた気持ち）の読み取り

・身体の動きや表情の変化を見逃さないための記録（動画）の蓄積

・満足感、達成感、心の安定等を生む十分な活動時間の設定

(2)　課題

〇対話的な学びにつなげる教師の思い（感じた気持ち）の読み取り

・思いを読み取る、待つ、反応を受け止めるための教師の働き掛けと寄り添い方

・気持ちの共有やフィードバックをして終わりではなく、本人の受け止めまでの見届け

５　まとめ

気持ちの表出等が微細な生徒ではあるが、刺激に対して口元を動かす、働き掛けに対して顔を向け聞き入る、指先でタブレットを操作するなど、表情の豊かさや気持ちを表出する力が少しずつ高まってきている。日々の学習に加え、体験をゴールにした流れのある題材への取組を今後も継続し、気持ちの表出をさらに高めていきたい。

＜授業実践２＞

達成感を感じられる授業づくり
～具体的な目標を提示して～

１　生徒の実態（高等部３年、女子）

・本生徒は両側上下肢痙性麻痺のため、寝たきりの状態であるが、頭部を前後左右に動かすことができる。また、両腕は肘が屈曲しているが、右腕を顔面方向へ５㎝ほど動かすことができ、右手は少しだけ握ることができる。

・他者と明瞭に会話をすることができ、童謡や歌謡曲の歌詞を覚えて歌うことができる。また、50 までの数唱ができる。色の名前は分かる。

・人とたくさん話がしたい。頑張る姿をみんなに見てほしい。＜本人＞
様々な体験（刺激）をしてほしい。散歩でもいいので、外の世界の花や木等広い世界を感じてほしい。健康で笑顔を絶やさず過ごしてほしい。＜保護者等＞

・加齢による衰えがあることから、現在の会話機能と身体機能をできるだけ維持していくことが大切であり、そのために右手や首を使ったり、会話を取り入れたりした活動を毎日設定している。自分の活動を褒められるととても喜び、次の活動への意欲へつなげることができる。

２　指導目標及び指導計画【自立活動】

(1) 指導目標

・感触遊びや制作活動に取り組み、様々な素材に触れて経験の幅を広げたり、手を動かして作品を作ったりする。

(2) 題材設定の理由

・カレンダーは毎日の生活に必要な物であり、日々見るため自分が作ったという満足感を得やすい物である。さらに、病院スタッフの目にも留まりやすいため、本生徒との会話のきっかけや学校の授業への理解にも繋がると考える。

・これまでも制作活動には取り組んでおり、作る活動は好きである。しかし、手を自由に動かすことが難しいため、自分で筆を動かしたという実感をもてるように、補助具や描いた事を生徒と一緒に確認しながら授業を進めて行くこととした。

(3) 指導計画

題材名	主な目標	時数
作ってみよう（７、８月のカレンダー）	・右手でつかんだ補助具を動かして絵具を塗ったり、飾りを貼り付けたりする。 ・自分で塗る色を選んで教師に伝える。	６時間

３　指導の実際

(1) 達成感を得られるための工夫

〇流れのある題材計画

・年間を通して取り組め、様々な素材を扱えるように、カレンダーを題材とした。また、生徒にとって分かりやすいように、同じ活動を繰り返した。

〇言葉掛け

・具体的な言葉で、かつ端的に話すようにした。

・具体的な目標を生徒と相談し、決まったことを生徒自身に話して確認した。

〇姿勢づくり

・腕を使って学習することを意識できるようにすると共に、腕の動きを良くするために、授業の前に腕のマッサージや肩を軽く動かす動作を行った。

〇教材教具

・筆を保持できるようにマジックアーム（自作教具名）を制作して活用した。本生徒の眼前で筆を動かし、塗った結果が見えるように、アームの形を変えられる物を使用した。

・塗る紙を眼前に提示すると共に、少ない腕の動きでも結果が分かりやすいように様々な質の紙を使うようにした。

（絵の具の吸収が良いように、コーヒーフィルターを使用）

〇授業展開

・授業の始めに絵のどの部分を塗るのか知らせ、何色を何個（何枚）完成させるのか生徒と相談し、途中で「今〇個できたね」などと生徒と確認しながら授業を進めるようにした。また、振り返りでは、授業でできた物を見ながら一緒に数えたり色を確認したりした。

(2) 学習の様子

学習内容	手立て及び留意点	生徒の様子
1　始めのあいさつ		
2　今日の学習を知る	・具体的な活動や作る色、数を知らせる。	
3　カレンダー作り (1) ２色の中から、塗る絵の具の色を選ぶ	・色の名前や左右の場所から選択できるように、２つの絵の具を並べて提示する。	・空の色や葉の色を問い掛け、色名を正しく答えた。
(2) 星や花火のパーツを貼る	・描いたものや貼ったものをその都度見せて、活動の成果を即時評価する。 ・活動の途中でできたところを生徒と一緒に確認したり、活動を継続するか問い掛けたりする。	・筆が動いていく様子を見ようとした。 ・線を長く引けるようになった。 ・「自分が塗った」「塗れた」と発言するようになった。
4　振り返り	・目標数に対していくつでき	・どのような活動をしたか、何個

5　終わりのあいさつ	たか生徒と一緒に数えて、活動を具体的に振り返られるようにする。	作ったか等、活動を具体的に振り返り、病室に戻っても話すことができるようになってきている。

(3) 指導の評価

・何本の線を引くか生徒と相談し、目標本数を決めることができた。早くできたときは、追加で描くか相談し、「もっとやりたい」という言葉を引き出すことができた。

・授業前に腕のマッサージをしてリラックスさせ、学習で使う身体部位を意識させたことで、右腕の可動域が広がり、筆を上方向だけでなく、左方向へも動かすことが多くなった。

・生徒と一緒に線の数や貼った星の数を数えたが、振り返りに時間をとられ、授業時間を超えてしまうことがあった。

・友達にも意識を向けられるように、普段から他の人を意識できるような言葉掛けをする。

・肘の位置や腕をサポートするためのクッションを準備するなどして、車いす乗車中に腕を動かしやすい姿勢づくりをすることが必要であった。

4　指導における成果と課題

(1) 成果

・本時の目標を具体的に示し、生徒と一緒に考えることで、授業の始めに決めた目標を超えて作ることが増えた。

・授業の目標や活動を、具体的で分かりやすい言葉で伝えることで、授業を振り返った時に感想だけではなく、「〇〇が面白かった」「〇〇をやって、できた」と自分で考えた言葉で話すことが増えた。

・生徒の扱いやすい教具を使い、生徒が見ながら操作（描く、押す、引っ張る）できるようにしたことで、「もっとがんばる」と話し、意欲を見せることが多くなった。

(2) 課題

・本生徒の見やすい左側からの働き掛けが多かった。身体の拘縮をできるだけ防ぐ意味でも教材の提示場所や車椅子の向き、教師の立ち位置にも気を配る必要性があった。

・授業の中で上下左右の位置や数唱、色の名前などを取り上げた。本生徒の得意なことでもあるので、もっと多くの場面で取り上げていくべきであった。

5　まとめ

卒業後は病棟での刺激の少ない生活になってしまう。やりたいことの選択や要望の質問をすることで、自分の気持ちや考えをはっきり伝える機会を多くし、周囲の人に自分の体調や、やりたいことが伝わることを経験させたい。

＜授業実践３＞

コミュニケーションを広げる読み聞かせ活動
～スイッチ教材を活用して～

１　生徒の実態（高等部３年、女子）

・脳性小児麻痺による体幹機能障害で定頸や座位は難しい。
・視力は右眼のみ。時々視線はそれるが、注視や追視をする。興味のある絵本や画像などを見て、目を大きく見開いたり、じっと聞いたりする様子が見られる。
・楽しい気持ちを、笑顔や発声、手や足の動きで表す。自分の意に沿わないときは、口を「への字」にしたり怒ったような声を出したりして伝える。
・左手を使ってスイッチを押したり、音楽に合わせて楽器を鳴らしたりする。
・新しい活動に挑戦したい。＜本人＞
自分から声を出したり、身体を動かしたりして、精一杯自分を表現してほしい。できるだけ人と触れ合って様々な活動に参加して刺激のある生活をしてほしい。＜保護者等＞

２　指導目標及び指導計画　【自立活動】

(1) 指導目標

・マッサージや体操を通して心地よさを感じ、緊張を緩めたり、自分の身体を意識したりする。
・様々な物に触れたり、音や香りを感じたりして自分の気持ちを表情や手・腕の動き、発声で表す。
・教師とのやりとりを楽しみ、提示物に注目したり手や腕を動かしたりして活動に取り組む。

(2) 題材設定の理由

・本生徒は友達との関わりや周囲の人との関わりを楽しみにしており、たくさんの人の前で発表したり、一緒に活動したりすることを楽しみにしている。読み聞かせ活動では、本人の得意な動きを生かしながら教師とやりとりして授業を展開していくことができる。また、スイッチ教材を活用することで主体的に活動に取り組み、操作する楽しさを味わうことができる。友達や周囲の人の前で発表する場面を設けることで意欲が高まると考え、本題材を設定した。

(3) 指導計画　（総時数 28 時間）

題材名	主な目標	時数
お話を楽しもう	・お話を聞いて登場人物が分かり、手や腕を動かしながらペープサートを一緒に作る。	２時間
	・お話に合わせて、繰り返しの部分を握りスイッチで押しながらお話を進め、お話を楽しむ。	４時間
	・スイッチ教材を操作しながら、友達や教師の前でお話を発表する。 ※この活動を、お話の内容を変えながら年間を通して行う。（年４回）	１時間

３　指導の実際

(1) 自分から手や腕を動かし、達成感を味わえるための工夫

〇流れのある題材計画

・ペープサートを作る等の制作や音楽的活動を組み合わせて題材を組み立て、意欲を高めるために友達の前で読み聞かせ（発表）する活動を題材のゴールに設定した。

〇言葉掛け

・本人が気持ちを表せるように、一つの言葉掛けをして本人の反応を待って、次の活動に移るようにする。

〇姿勢づくり

・ＰＴのアドバイスを受けて、顔の向きが安定するように首元にクッションを挟み、隙間を作らないようにした。活動によっては腕を動かしやすいように、脇にクッションを挟んだ。また、右腕の拘縮が顕著なので、無理に動かすのではなく、状態を見ながら可動域を最大限に動かすようにした。

〇教材・教具

・物語の選定にあたっては、季節に合ったもの、本人の興味があるものを意識して本人の反応を見ながら、相談して決定する。

・本人の得意な左手の動きを活用し、繰り返し出てくる言葉を握りスイッチを押して話すようにした。握りスイッチに力が伝わりやすいように、滑り止めシートを巻いて太さを調整した。

・自分が見たい場所に注目しやすいように、絵本の周囲を黒い布等で覆ったり、手元が見えるように鏡を活用したりした。

〇授業展開

・一単位時間の流れについては、始めにマッサージや体操をして緊張を緩め、手や腕を動かしやすいようにした。最後にお話に関連した歌や季節の歌に合わせて楽器を鳴らす活動を設定し、期待感をもてる授業展開を心掛けた。

(2) 学習の様子

学習内容	手立て及び留意点	生徒の様子
1　始めの挨拶、本時の学習について知る。 2　身体を緩める。 3　『だんまりこおろぎ』のお話を聞く。 ①　スイッチを押しながら、教師と一緒にお話を読み進める。 ②　こおろぎの鳴き声を聞く 4　「虫の声」の曲に合わせて楽器を鳴らす。 5　終わりの挨拶をする。	・本人の発声に合わせて挨拶をする。 ・ボディイメージをもたせるように身体の部位を伝えながら、腕や肩に触れるようにする。 ・一人でスイッチを押せるように、必要に応じてクッションを脇などに挟み、姿勢を整える。 ・反応を見ながらゆっくり進める。 ・こおろぎの鳴き声をじっくり聞かせ、表情を見ながら気持ちを読み取って代弁する。 ・どの楽器がいいか問い掛け、表情を見ながら選択させる。 ・タイミング良くスイッチを押したことを賞賛し次時へつなげる。	・声を出し、両腕をたくさん動かして挨拶をした。 ・絵本を提示したとき、ニコッと笑顔を見せて期待感を表した。 ・意図的にスイッチを押した場面と反射的に押した場面が見られた。 ・楽器を鳴らさず、曲をよく聴いていた。

(3) 指導の評価

○授業づくり検討会に指導主事を要請して指導助言をいただいた。また、本校職員にも参加していただき、授業のビデオを基に評価を行った。

・言葉掛けにおいては、体操で身体の部分の伝え方が一定でなかった。言葉をどういう意図をもって伝えるか、ねらいをもって言葉を掛けていくようにする。

・生徒に伝わりやすい言葉掛け。意図をもって言葉を選んで伝える。

・スイッチ教材の形状の妥当性について検討が必要である。握りスイッチの場合、棒の太さや強さ、形は適切か、どう活用してほしいのか教師の意図が本人に伝わるようにする。

・スイッチを反射的な形で鳴らしてしまったり、本人の遊びとして鳴らしてしまったりすることもあるため、それを許容するのか指導目標を踏まえ検討が必要である。

・虫の鳴き声など、音量や音源の場所、タイミングを含めて、音に集中しやすい状況作りをする。

・生徒の反応の捉えについて、やりとりの中で本人がどう解釈しているのか周囲の教師の意見も合わせ、客観的に捉える。

・生徒の思考が一つ一つの活動に向くような教師の意図が伝わりやすい支援をする。

4　今年度の指導における成果と課題

(1) 成果

・本人の思いに近づくために、一つの言葉掛けに対する反応を待って表情の違いを丁寧に読み取るようにしたことで、喜怒哀楽を表現することが増えた。

・本人が身体を意識できるように、言葉を一定にし、しっかり触れるようにしたことで、触れられている部分を意識する様子が見られた。

・音に集中しやすいように、場所やタイミングを見て聞かせたい音を流すことで、音源を探すような様子が見られ、音楽や家族の声、虫や鳥の声などに笑顔を見せた。

・様々な場面でスイッチ教材を活用したことで、生徒の意欲が高まるとともに、教師とのやりとりが広がり、病院スタッフからも「こんなことができるんだ」などの感想が聞かれた。

(2) 課題

・生徒の興味・関心の幅をさらに広げるために、別の角度からアプローチしたり、病院スタッフとの連携の仕方を工夫したりすることが大切である。

5　まとめ

授業づくり検討会で複数の目で実態把握をしたり、活動のアイディアを出し合ったりしたことで、本生徒が意欲や達成感を感じることができる活動を設定でき、生徒の生き生きとした姿につながった。

本生徒は今年度で卒業となるが、好きな活動を通して笑顔が増え、関わりがさらに広がるように、興味・関心を示したことや得意なことなどについて担当保育士や看護師と共有していく。

＜授業実践４＞

道川分教室における合同学習の取組

１　はじめに

道川分教室は、自立活動を主とした指導を行っている。指導の形態は前項までの事例で示した個別指導を基本としているが、指導効果の観点から集団を構成した指導（合同学習）も行っている。

合同学習の授業づくりでは、「集団の中で個が生きる」視点を大切にしてきている（参考：H25～H28研究紀要）。生徒と教師、１対１の関係から出発した情動の共有と信頼関係を基にして、小集団を構成する他の教師や友達と「思い」を共有しながら、個別学習でできるようになってきたことを発揮できるようになれば、学ぶ楽しさやコミュニケーションがさらに広がっていくという考えの基に実践している合同学習について紹介する。

２　生徒の実態等（中学部生徒１名、高等部生徒３名）

・全生徒の合同学習で、体育的な活動と音楽的な活動を週あたり各１時間行っている。
・全員が合同学習の際に、表情が和らいだり、気持ちが高揚したりしている様子が見られることから、期待感を抱いていると考えられる。
・全員車いす上での活動である。

３　指導目標及び指導計画　【自立活動（合同体育）】

(1) 指導目標（個別の目標は個別の指導計画による）

・自分の身体を意識して動かす。
・友達や先生と活動する楽しさを味わい、感じた気持ちを自分なりの方法で表す。

(2) 題材設定の理由

・毎年行っている活動であり、学習内容をイメージしやすい。
・全員が得意な「腕を使って引く」動きの他、個別学習で取り組んでいる、「押す・蹴る」「発声する」「（呼びかけ等に）応える」場面を設定しやすい。
・キッカー、キーパーの対決形式にすることで、関わりながら活動ができる。

(3) 指導計画

題材名	主な目標	時数
「サッカーゲームを楽しもう」～ワールドカップ2022カタール大会～	・ひもやロープを手で引いたり、ボールを手や足で転がしたりして自分で身体を動かす。 ・ゲーム等を通して友達や教師との活動を楽しみ、感じた気持ちを表情や身体の動き、発声等で表す。	６時間

４　指導の実際

(1) 関わる楽しさを共有しながら、個別学習でできるようになってきたことを、集団の中で発揮しながら活動できるための支援の工夫

支援の工夫	生徒の様子
担任以外の教師からの呼び掛け（言葉掛けの役割分担） ・導入時等に、Ｔ１が呼名や挨拶の依頼をし、その他指導者は言葉掛けを控えて見守る。	・Ｔ１からの呼びかけにタイミングよく、タブレット端末（アプリ：xylophone）で応えることが多く見られるようになった。 ・新たな活動に抵抗を示す生徒が、担任以外の指導者と一緒に挨拶等の活動を行うことができた。

個別学習で行っている体操等の活用（安心感ある授業展開） ・個別学習で行っている、音楽に合わせた体操に担任と取り組む。	・全員が、聞き慣れた音楽の基、集団の雰囲気の中で身体をリラックスさせる活動に取り組むことができた。 ・音楽を介することで、担任以外の指導者と普段通りに体操に取り組むことができた（一部生徒）。
友達の活動を意識できる活動時の配置（関わりを引き出す姿勢づくり） ・感染対策の基、それぞれの活動を意識しやすい位置取りや教材・教具の配置を工夫する。	・友達を笑顔で指さすなど、友達との関わりを楽しみながら活動する様子が見られた。 ・勝負の結果を理解できる生徒は、対面での対戦を通して「勝ってうれしい、もう一回やりたい」などと気持ちを表現することができた。 ・担任以外の掛け声で紐を引くことができた。
それぞれの見え方を踏まえた、モニターの設置（状況理解につなげる教材・教具の工夫） ・それぞれの姿勢等により異なる見え方に応じたモニターの配置を工夫する。	・ボールを蹴る足元を壁面に投影しながら活動したところ、画面を見ながら意欲的に足を動かすことができた。 ・仰臥位のまま活動の様子を見ることができるように、天井に活動映像を投影したところ、笑顔や発声が見られた。
それぞれの動きに応じた教材・教具の活用（得意な動きを引き出す教材・教具の工夫） ・個別学習等で活用している、ボールを転がすスロープや応援具等を使って活動する。	・ボールを押し出す、紐を引くなどの活動をスムーズに行うことができた。また、「足で蹴る」活動に初めて挑戦できた生徒もいた。 ・物に触れることにやや抵抗のある生徒が、自身の対戦がない場面で自分から応援具を持ち、他生徒の対戦を応援する様子が見られた。

(2) 学習の様子

学習内容	学習の様子
1　挨拶 2　準備体操 3　チーム決め 4　ＰＫ対決 （キッカーVSキーパー） 5　振り返り 6　挨拶	 【タブレットで応える】 【全員で準備体操】 【関わり合いながら】 【ゴールキーパーの活動（引く動作）】

【映像を見ながら】

【天井に投影して】

【スロープを使って】

【応援】

(3) 指導の評価

・複数の指導者の働き掛けを工夫することで、個別学習で身に付けた表現方法で応える、友達を意識して活動に取り組む等、関わりの広がりにつながった。

・教材・教具を工夫したり、ＩＣＴ機器を有効に活用したりすることで集団の中でも自分の力を発揮して活動する姿につながった。

５　指導における成果と課題

(1) 成果

・生徒の身に付けた力の般化につながる活動ができた。

・生徒の見え方に応じたＩＣＴ機器の活用について、他の学習場面でも応用し、生徒の意欲的な活動につなげることができた。

・コミュニケーションを広げるための合同学習の授業づくりの考え方を整理できた。

(2) 課題

・あきた病院内の在籍生徒が一人となる次年度以降、関わり等を広げるための学習内容について検討する必要がある。

６　まとめ

合同学習を通して、生徒のコミュニケーションの広がりが見られた。背景には、「集団の中で個を生かす」視点をもった授業づくりがある。授業づくりにあたっては、個別の指導計画等を活用しながら、個別学習と合同学習のつながりを丁寧にチームで検討した。次年度以降も、生徒の変容につなげるための効果的な指導の仕方について検討を重ねる体制を継続できるよう、引き継いでいきたい。

６　まとめ

(1) 生徒の変容

過年度の研究成果を生かしながら授業づくりを行ったことで、「わかった」「できた」と学びを実感し、それぞれの生徒が個々の表現の仕方で精一杯気持ちを表す姿が見られた。具体的には、「分かってうれしい」等自分の言葉で話す、タブレット端末やスイッチ教材をタイミング良く押す、「うれしい」「もっとやってみたい」気持ちを笑顔や不満気味の表情で表す、教師からの誘いかけに対して、元気に挙手をしたり身体の一部を動かしたりする様子が日常的に見られるようになった。

(2) 「学びを実感し自分の気持ちを精一杯あらわす姿」を引き出すための授業づくりのポイント

チームによる授業づくり検討会

道川分教室では、病院内訪問教育における授業づくりにおいて、障害の重い児童生徒一人一人の思いに寄り添い、思いを共有することを大切にしてきた。そのために、「アセスメントチェックリスト」や「道川版自立活動の流れ図」、「道川授業デザインシート」等を活用して、担任一人の主観だけではなくチームで多角的に実態把握から目標設定、授業実践、評価、改善を行ったことで、児童生徒が学びを実感でき、一人一人が輝く姿につながった。

また、日常的に生徒のエピソードや張り切って活動した映像などを職員間で共有したことで、生徒の表情の変化などに気付き、合同学習の際などに担任以外の教師との関わり（周囲からの賞賛や効果的な言葉掛け等）が広がることにつながった。

５つの観点に基づく指導・支援の工夫　（共通実践事項）

「道川授業デザインシート」を活用し、５つの観点を基に指導・支援を工夫したことで、生徒が学びを実感し、自分の気持ちを精一杯あらわす姿につながった。

〇流れのある題材計画～題材のゴールを明確にすることによる学びの蓄積とステップアップ
見通しや安心感につながる学習の積み重ね

〇言葉掛け～「何をやるのか」「何を学ぶのか」教師の意図が伝わる言葉掛け
教師の言葉掛けから生徒の表出を待つ間（ま）の大切さ
生徒の気持ちのフィードバックと本人の受け止めまでの見届け

〇姿勢づくり～本時の学習活動と関連する動きを意識できる導入の工夫
活動しやすいポジショニング
ＯＴ・ＰＴ等との連携

〇教材・教具～五感に訴え個々の表現方法に応じた工夫
個々の興味・関心や生活年齢等に応じた工夫
個々の見え方に配慮した配置の工夫

〇授業展開～「動」と「静」のメリハリのある活動設定
めあてが分かる導入の工夫とできたことが分かるまとめの工夫

(3) 病院との連携

学校生活の基盤となる健康を維持するために、日々の児童生徒の状態を把握したり、ＯＴ、ＰＴ、ＳＴなど専門的な立場からのアドバイスを活用したりすることで、安心・安全な学習につながった。また、病院生活＝生活の場になる生徒の卒業後に向けて、学校と病院で情報を共有することで教育と医療の両視点から生徒の実態を見つめ直すことにつながり、相互理解が深まった。

(4) 今後に向けて

限られた生活空間で学習する生徒にとって、「一緒に活動する友だち」は、かけがえのない存在である。友だちからの働き掛けを受け止め、自分の気持ちを表現する場が少なくなっている現状であるが、道川分教室で長年培ってきたＩＣＴ機器を活用した学習を通して、今後もたくさんの人とのつながりを大切にしていきたい。

7　おわりに

今年度、本荘養護学校時代から積み重ねてきた授業づくり等の実践の成果を活用しながら、研究を推進してきた。具体的には、「各種ツールを活用した実態把握や指導目標の設定」「５つの観点に基づく指導・支援」「エピソード記録や映像を活用した評価や改善の視点検討」などをチーム（授業づくり検討会）で行ってきた。検証は、特定の研究授業によらず、全生徒の個別学習等を通して行い、汎用化を目指した。結果として、生徒のよりよい変容が見られている。

各実践例等でも述べられているとおり、道川分教室の生徒は、反応が微細であったり、加齢による体力等の衰えが見られたりする実態である。しかし、このような実態の中でも丁寧な授業づくりの中で笑顔があふれ、意欲的に学び、確かな成長を見せてくれている。改めて学びに障害の程度や年齢は関係のないことを教えてくれた生徒に感謝したい。

本研究実践が、多くの子ども達への授業づくりの一助となることを願って、道川分教室最後の紀要を締めくくる。

＜参考・引用文献＞

・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編　　文部科学省　平成 30 年３月
・平成 22 年度～令和３年度　研究ゆり　第 12 号～第 23 号　秋田県立ゆり支援学校
・重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト
　　－認知・コミュニケーションを中心に－ver. 5. 0（広島県立福山特別支援学校）
・『ひとがひとをわかるということ』鯨岡　峻　ミネルヴァ書房

＜資料＞研究計画

主な活動内容				
月	研究会 ※	授業づくり検討会・授業研究	研修	その他
4	○分教室研究会①(21) ・今年度の研究の進め方について ・研究概要の確認			
5	○分教室研究会②(11) ・事例研究の進め方について	○授業づくり検討会Ⅰ(12～16) ・実態把握、教育的ニーズ、実態に基づく中心課題の検討 ・指導目標、指導内容の検討 ・題材計画の検討 ・事例テーマの検討		・訪問担当教員研修会：前期(19)
6		○授業づくり検討会Ⅱ (5/30～6/3) ・指導主事訪問指導案検討 ・授業デザインシート作成		・指導主事計画訪問(24)
7		○授業づくり検討会Ⅲ(11～15) ・映像記録等による評価 ・１学期の成果と課題 ・２学期に向けての改善点	☆「教材・教具研修会①」	
8	○分教室研究会③(19) ・成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善		・教育課程研修会(１) ★「ＩＣＴ機器研修(情報部)」	
9		○授業づくり検討会Ⅳ(20～27) ・映像記録等による評価と改善	★授業づくり研修会「病院訪問教育における授業づくり」(26)	
10				・訪問担当教員研修会：後期(7)
11		○授業づくり検討会Ⅴ(24～30) ・生徒の変容の確認 ・２学期の成果と課題 ・３学期に向けての改善点		
12	○分教室研究会④(13) ・研究の評価及びまとめ			
1	○分教室研究会⑤(23) ・成果と課題の共通理解		★「ＩＣＴ機器研修(情報部)」	
2				
3				

☆本校主催
★分教室主催